

## 品川区活動ママからの報告資料

平成 25 年 12 月 6 日 参議院会館



- 品川区での放射能対策と流れ
- 品川区での状況と課題
- 子どもたちの給食についての要望
- 平成 23 年度品川区議会に提出した陳情書 (当日参加者のみ配布)
- 平成 25 年度品川区議会に提出した陳情書 (当日参加者のみ配布)
- 東京都全体での給食食材放射性物質検査対応一覧



## 品川区での放射能対策と流れ

平成 23 年 9 月 品川区議会

「品川区の子どもたちを放射能被ばくから守る為の陳情」を提出しました。

結果・・・全会派一致にて「採択」となりました。陳情項目は下記に記します。

### 給食について

区内の給食に使われる食材の放射線量を独自に検査し、乳児の調乳に使われる水や、子ども達の給食に使われる水は、放射能物質が含まれていない水を使用し、また食材の選定は汚染地を除外し、1 kg あたり 4 ベクレル以上の放射性セシウムを含む飲食物を与えないようにする。特に主食である米の産地に関しても同様とし、地産地消・被災地支援等は子どもたちに断じてさせるべきではない。あらゆる手立てをもって子どもたちの給食による内部被ばくを防ぐ

### 給食の調理方法について

区内の給食に携わる栄養士・調理師を始め、校長・園長・保育者等に放射線被ばくに関する知識を定期的な勉強会開催などで徹底し、子どもを預かる職業として被ばく予防対策に努める

### 放射能測定について

区内の全幼稚園、保育園、小学校、中学校に線量計を配置し、子どもが集う公園、児童館、図書館、各種センターなどの放射線量の計測ならびに公表、高線量部位の速やかな除染、活動の制限等の徹底。計測の結果、子どもの遊び場として適切ではないと判断される土壤等が含まれる場合には、当該土壤を、人工放射性核種を含まないものと入れ替えること、園、学校等において採取された野菜等は専門の検査機関で安全とされたもの以外は子どもたちの口に入れない

### 品川区独自の対策について

全ての子どもを被ばくから守る為にも、年間の被ばく量を原発事故以前まで減らす事を目指し、品川区の指針、制定をして頂きたい。

### 実施された項目

- 1) 給食食材検査 (委)
- 2) 土壤Bq検査 公立 幼・保・小・中・区内公園 (委)
- 3) 空間放射能測定 公立 幼・保・小・中・公共施設・道路 (区・委)

### その他

区民が利用できるガイガーカウンターの購入、貸し出し

## 品川区での状況と課題

### 平成 25 年・現在の状況

- 1) 給食食材の検査の実施、不安な品目に対する確認と指導を区が行っている。
  - ・ 1食分の給食まるごと検査・1園あたり1年3回  
保育園の検出下限値 給食1食分4Bq前後 牛乳1ℓ1Bq以下
  - ・ 1食分の給食まるごと検査・1校あたり1年3回  
小中学校の検出下限値 給食1食分1Bq以下
- 2) 放射能を懸念している家庭に対しての柔軟な対応。
  - ・ お弁当、水筒の持参（保育園でも可）
  - ・ 屋外活動をする、しないの尊重  
（運動会・遠足・修学旅行・芋堀など恒例行事）
- 3) 区内の空間線量、土壌 Bq が高いと感じられる場所が見つかった際は迅速な調査と除染作業を行っている。
- 4) 品川区内の小・中学校に関しては年1回、教育委員会で空間測定調査を行って来ています。幼稚園、保育園に関しては希望のある園のみ区の職員が測定に伺う事となっています。

### 今後の課題

- 1) 給食食材検査の継続
- 2) 空間線量測定の継続
- 3) 幼稚園、保育園、公園の空間線量測定の開始
- 4) 幼稚園、保育園、公園の土壌 Bq 検査の再開（幼・保・学校の菜園も含む）
- 5) 園児、生徒が行事などで食す物も事前検査の実施。
- 6) 魚のストロンチウム検査の実施
- 7) 移動教室や遠足の目的地の再検討

### 現在の活動について

平成 25 年 11 月 15 日 品川区議会へ2回目の陳情を提出致しました。

内容は、「食品測定器の購入を検討して下さい」というもので、その理由として一般に流通されている食品は 100Bq ですが、乳幼児の食品基準は 50Bq となっています。離乳食など作る際にも購入する食材は一般食品基準の為、不安を抱える保護者が多い事と、国で定めた基準ではなく個人基準での選択、判断ができればいいなと考えました。この陳情は厚生委員会にて審査がされ採択となりましたが、本会議での決定はまだされておられません。本会議でも採択となるよう見守りたいと思います。

## 子どもたちの給食についての要望

山本太郎議員 殿

品川区 鈴木志織

子どもたちの給食からの内部被ばくについて、懸念と不安をお伝えいたします。汚染されている可能性がある食材を食べ続ける事によって起こる内部被ばくの軽減対策を行って頂けるようお願い申し上げます。希望する対策として下記に記します。

### 内部被ばく軽減対策について

- 1) 提供される給食は、子どもたちが食す前に全て検査確認を行って欲しい。
- 2) 海産物を使用する場合、ヨウ素、セシウム、ストロンチウム、トリチウムなどの安全性を確認していない物は使用しなで欲しい。
- 3) 保育園など乳幼児に提供されているレバーや骨ごと食べる小魚などは特に注視して欲しい。
- 4) 給食を作る際に使用される水道水に浄水器などを設置し、水道水に含まれるセシウムの摂取を軽減させて欲しい。
- 5) 主食となる米や小麦粉などは特に摂取量が多いため最新の注意を払って欲しい。
- 6) 各自治体での検査体制の格差がないようにして欲しい。

### 補足

- ① 現在、汚染水の流出がどこまで拡散されているのか不明確な為、海産物の安全性の確認を行ってから、子どもたちに提供して欲しい。
- ② セシウムは筋肉や内臓に蓄積されやすく、ストロンチウムは骨に溜まりやすいと言われている為、注意を払って欲しい。
- ⑥ 給食食材検査を行っている区、いない区、検出下限値についても様々全て1 Bq 以下での検査を行って欲しい。

## 東京都全体での給食食材放射性物質検査対応一覧

○＝検査を行っている    ×＝検査を行っていない    △＝希望する園のみ検査を行っている

地区名	方法	使用機器	検査 食前・後	公立 小中学校	区立 幼稚園	区立 保育園	私立 幼稚園	私立 保育園	認証 保育園	児童 施設	下限値 B q
千代田区	まるごと	ゲルマ	後	○	○	○	○	○	×	×	1
中央区	まるごと	シンチ	後	○		×	×	×	×	×	25
港区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	○	○	×	○	0.7
新宿区	まるごと	シンチ	後	○		○	×	×	○	×	25
文京区	まるごと 単品	ゲルマ シンチ	後 前	○ ○		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	1 10
台東区	まるごと	シンチ	後	○	○	○	○	○	○	○	5
墨田区	まるごと	シンチ	後	○	○	○	○	○	○	○	4～7
江東区	単品	シンチ	前	牛乳のみ		牛乳のみ	×	×	×	×	10
品川区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	×	×	△	△	1～4
目黒区	単品	シンチ	前	○		○	×	○	△	△	1～10
大田区	まるごと	シンチ	後	○		○	×	×	○	○	5
世田谷区	まるごと	シンチ	後	○		○	×	×	×	×	3～4
渋谷区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	×	×	×	×	1～3
中野区	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×
杉並区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	×	×	×	○	0.0～1
豊島区	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×
北区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	○	○	○	×	10

地区名	方法	使用機器	検査 食前・後	公立 小中学校	区立 幼稚園	区立 保育園	私立 幼稚園	私立 保育園	認証 保育園	児童施 設	下限値 B q
荒川区	まるごと	シンチ	後	○		○	×	×	×	○	25
板橋区	まるごと 単品	ゲルマ シンチ	後 前後	○ ○		○ ×	×	×	×	×	1.9~20 25
練馬区	単品	シンチ	前	○		○	×	○	○	○	25
足立区	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×
葛飾区	まるごと	ゲルマ	後	○		○	○	○	○	○	1.6~2.7
江戸川区	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×